

試 験 地 設 定

区分 **自主**

武雄 営林署

(様式1)

開発課題	(その1)				期間	自 64年度 至 69年度
開発目的	2回目除伐方法を従来の目的外侵入木の除伐だけにとどめず、2m程度の枝打を併せて実行し優良林分の造成に努める。					
設 定	場 所	営 林 署	担、当 区	国 有 林	林 小 班	
		武雄	鹿島	本城	733	
	数 量	面 積	数 量			
		11.53				
	設 定 年 月 日	6.55 /	終 了 年 月 日			
	担 当	営 林 局	計 画 課 技術開発室 係			
		営 林 署	経 営 課 造林 係 鹿島 担当			
地況及び 気 象	標 高	方 位	傾 斜	基 岩	土 壤 型	土 性
	600	N	急	宇山岩	BD (d) 腐植土	壤土
	深 度	堅 密 度				地 位
	中	軟				スギ ヒノキ

林	林 令	林 種	樹 種	混交率	胸高直径	樹 高	材 積	本 数	相対照度	下層植生
		20年	人球	スギ ヒノキ	90 10					
況	設定前の施業経緯									
全 体 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体で68haの2回目除伐を実施する。 2. 2回目の除伐は改良除伐を実施する。 3. 除伐人工数は従来とおりで実行する。 4. 2m程度の枝打まで併せて実施し、経常枝打の繰延べを可能にする。 									

- 記載要領
1. 区分は指示、自主、任意課題別とする。
 2. 全体計画欄は年度別、実施事項及び目標、また、林試等の指導関係を記入する。

試 験 地 設 定

区分 自主

武雄 營林署

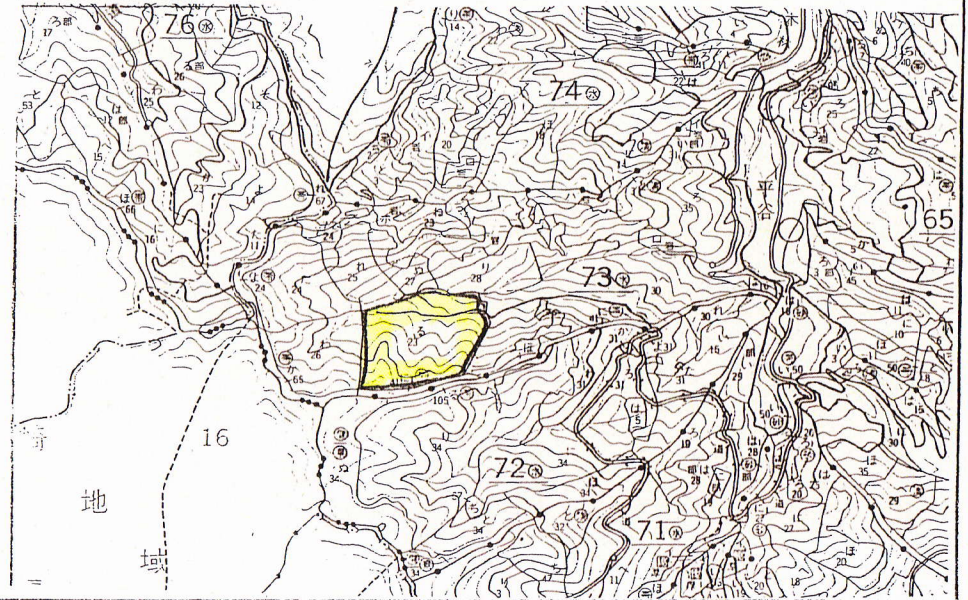
(様式2)

実 施 計 画

1. 2回目除伐(改良除伐)
2/27 実施
2. 53年度実行結果観察,

試験設定図

試験地位置図



記載要領 1. 実施計画は設定方法及び作業方法等具体的に記入する。

試験経過記録

(様式4)

区分 自主

武雄 営林署

56年度観察

(54年度実行個所の観察結果)

全体的に、従来の方法による除伐実行個所と比べて、成育状況及び枝打部位の巻込状態は良好と観察されるが、実行経過年数が短かいので、今後更に観察を継続する。

記載要領

1. 調査結果及び考察を記入する。
2. 状況写真は別途整理する。

評価および普及計画

(様式5)

区分	自営
----	----

武雄 官林署

評価 (H.56年度)

1. つるの巻きとがりが少なく、つる枯殺の実行が容易である。
2. 林内の通風が良く、病虫害の発生を防げ、成育も良好である。
3. 林内の歩行が容易になり、管理経費と良い、又第1回圃伐調査が省力で実施できると推定される。
4. 悪節、直枝の発生が見込まれる。

普及計画

1. 管内の一部担当区において、立地条件の適応する区番に導入して実行している所もあるが、改善計画に基づく省力改善除伐開発との関係もあり、全面普及については検討中である。

技術開発課題完了報告書

武雄 営林署

課題名	除伐方法の改善について					
課題区分	自主	開発期間	平成29	担当	鹿島担当区主任	
目標	2回目の除伐方法を従来の目的外侵入木の除伐だけにとどめず、2m程度の枝打まで併せて実行し優良林分の造成に努める。					
結果	1. 優良林分に成育しつつある。 2. つるの巻きエダが少なく、つる切の実行が容易である。 3. 林内の通風が良く、病虫害の発生を防げ、成育も良好である。 4. 間木調査の置木等が容易であり、省力で実施できる。					
施業及び作業の内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容
	伐採の方法					
	樹種					
	林齢	年				
	胸高直径	cm				
	樹高	m				
	㎡当たり本数	本				
	材積	m ³				
開発経過と調査内容	1. 除伐人工数は従来通りで実行する。 2. 改良除伐の2m程度までの枝打を併せて実施する。 3. 全体で68haの2回目除伐(改良除伐)を実行する。					

評価及び普及指導	経常枝打に近い効果があり、無節枝等優良枝の生産が期待できる。当担当区において一部、植生侵入難かん木の繁茂状況等条件の適合する区番に導入して、実行しているところもあるが改善計画に基づく省力改善除伐開発等、功程アツク等との関連もあり、全面普及については検討中であり。
----------	---

(様式4)~1

課題 除伐方法の改善について

1. 課題設定

当担当区は除伐対象林分を多く管理しているが、一部、下刈後及び1回目除伐後において、多量の
 カヤの侵入により、雑かん木の侵入が抑制され、林内のうっ閉へと移行しているところが見受けられた。

当担当区は全市業量を請負で実行しているが、この様な記番の除伐実行について、従来の目的
 外侵入雑かん木の除伐だけにとどめず、2m程度の枝打子で併せて実行するこれにより、優良林分を
 育成する試みをして設定した。

2. 実施計画

- (1) 全市で68haの2回目除伐(改良除伐)を実施する。
- (2) 改良除伐は併せて2m程度の枝打子で実行する。
- (3) 除伐人工数は従来程度の功程で実施する。

3. 実施経過

昭和53年度実施	2.51 ha	(請負実行)
" 54 "	21.27 "	(")
" 55 "	13.16 "	(")
" 56 "	12.72 "	(")
" 57~59 "	0 "	
計	50.66 ha.	

試験経過記録

(様式4)〜又

武雄 営林署

4. 実施結果及び考察

全体的に従来の方法による除伐実行の所々には、林分内容が非常に良好であり、優良林分を形成しつつある。

技打を併せて実施するところ、次のような結果が得られた。

- (1) つるの巻き上がりは少なく、つる切の実行が容易である。
- (2) 林内の通風が良く、病虫害の発生を防止し、成育も良好である。
- (3) 間伐調査の選木が容易であり、省力で実施できる。
- (4) 無節枝等優良枝の生育が見込まれる。

今後の普及等については上記のような利点があり、当担当区においては、一部、植生、侵入雑草木の繁茂状況等条件の適合する記番で実行しているところもあるが、改善計画に基づく省力化、中程了り等の関連もあり、又請負実行の場合には、現地の状況に適合し、きめ細かな作業をするにあり、作業内容の把握、指導等、むづかしい一面もあり、なお検討を要する。

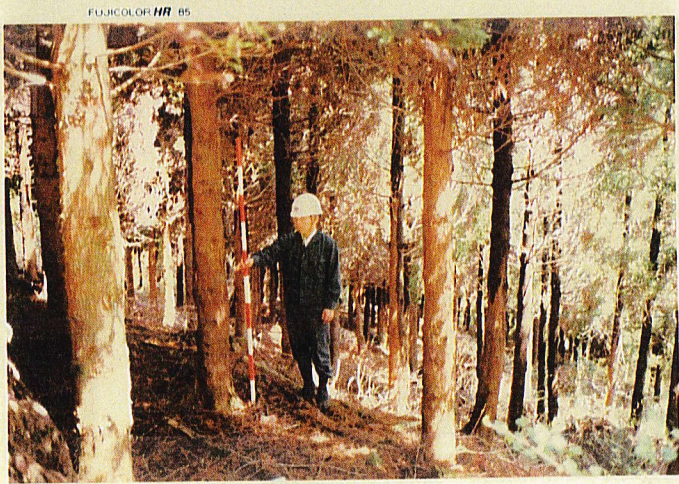
記載要領

1. 調査結果及び考察を記入する。
2. 状況写真は別途整理する。

状 况 写 真

武雄 営林署

(様式6)



昭和55年度改良除伐実行4班

本城国有林 733林小班

昭和55年度植付 12.28ha

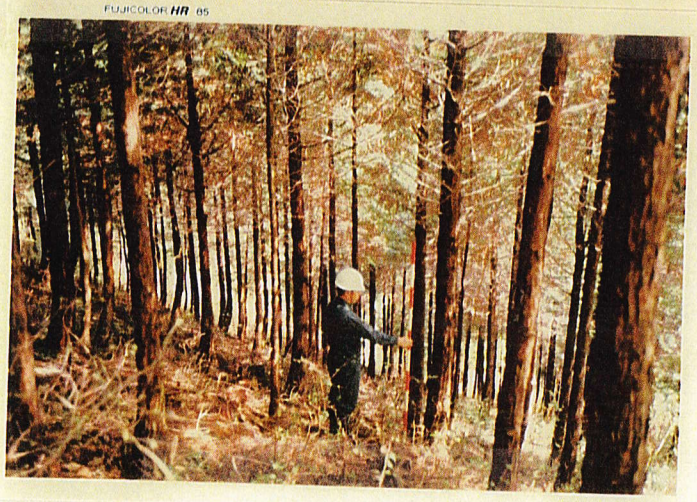
昭和58年度間伐も実行され

優良林分を形成した。

状 況 写 真

武雄 営林署

(様式 6)



昭和56年度改良除伐実行T所

本城国有林.69ハ林小班.

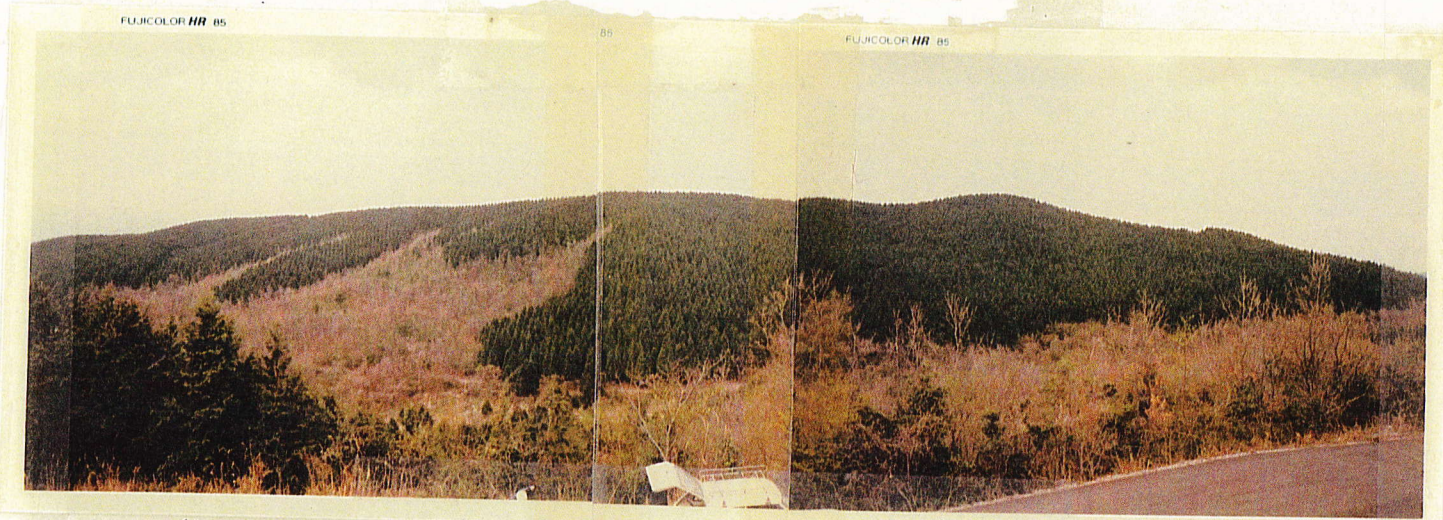
昭和39年度植付 2.43ha.

・経年比較的小さな形状が
良く、優良材を形成してある。

状 況 写 真

(様式6)

武雄 営林署



昭和56年度改良除伐実行方針

西川内国有林 815 林小班

昭和39年度植付 6.08 ha

変形木等が少なく、優良林分を

形成していった。

状 况 写 真

武雄 管林署

(様式 6)



昭和57年度改良除伐実行4回
大野原国有林 84丁 林小班

昭和40年度植付 631ha.

。73等の影響による変形木等も
少く、優良林分を形成してある。

状 況 写 真



昭和57年度改良除伐実行4所

大野系国有林 84畝林小班

昭和39年度植付 7,82本

生育状況が良好で林内の

完全以上の間し間伐の必要が

生じている。



昭和58年度除伐4所 (1回目)

本城国有林 71.8 林小畝

昭和47年度植付 11.80 ha.

。抜打も実行するに比より、73が完全に

除去され、又巻き土がりを防止するに比

より、変形木等が少なくなる。